

シリーズ☆働く現場から
～鹿野川ダム改造事業～

第1弾 世界最大級！ 巨大水路トンネルに挑む

鹿野川ダムとは・・・

伊予灘に注ぐ愛媛県最大の河川「肱川」
に位置し、洪水被害を防ぐために建設さ
れました。

鹿野川ダム改造事業とは・・・

鹿野川ダムの洪水調節容量を増加させる
ための工事です。今回は「トンネル洪水
吐」の紹介をしたいと思います。



トンネル洪水吐とは・・・

鹿野川ダムの洪水調節容量を増加さ
せるために、ダムの貯水池と下流の
河川をつなぐトンネル。



特集 記事

鹿野川ダムトンネル洪水吐の魅力

現在、工事最盛期を迎えている鹿野川ダム改造事業。ダムの脇にトンネルを掘るという前例のない工事に挑むにあたっての意気込みとは。



■ 担当工事の概要について教えてください。

鹿野川ダム改造事業として、ダムの洪水調節容量を増加させるために「**トンネル洪水吐**」を新設しています。「トンネル洪水吐」とは、鹿野川ダムに設置する新しい放流設備で、ダムの貯水池と下流の河川を繋ぐ放流トンネルのことです。トンネルは全長457mあり、下流側90m区間には放流管(図1)を設置します。放流管を設置する区間のまわりには地下水がないので、水の内圧に負けないように強度を上げる役目があります。



←(図1)
放流管は組み立てられたあと、トンネル内へ運び込まれる。

■ この現場での一番のやりがいはなんですか。

ダムの改造事業として、トンネル洪水吐という新しい方式に挑戦していることは、困難を極めると同時にとてもやりがいを感じています。

洪水対策なので流域の方からのご期待が大きく、少しでも早く洪水の不安を払拭したいという強い気持ちを持って望んでいます。

■ この現場特有の苦労は何かありますか。

ダムを供用しながらの工事なので、施工中の貯水池の変動が大きく、放流により工事が一部制限されます。呑口の場合は、**水深40m**という深いところでの工事なので漏水には細心の注意が必要です。呑口の杭を施工する際にはどうしても水が濁ってしましますが、ダム湖や肱川に濁水を流さないように気をつけています。

インタビュー記事の続きはこちら→

■ 一番のアピールポイントはズバリなんでしょう？

やはり**世界最大級の放流トンネル**ですね。先に挙げた大水深下での漏水対策は最大の課題でもあります。

■ 鹿野川ダム改造事業の所長に任命された時のお気持ちはいかがでしたか。

これまではダムの新設工事に従事していましたが、改造事業は新しい試みとなります。前例のない難工事となりますので、発注者をはじめ、関係者の総力を結集してやりとげなければならないと意気込んでいます。

■ この職場での思い出や一番印象深いことはなんですか。

ドラゴンボートやふれあい祭りなど、地域の皆さんとの交流はいい思い出です。

■ 過去どのような現場で働いていましたか？

これまで5件のダム工事に携わってきました。**ダムは土木工事の花形**である上、全国で出会う地元の方々からの期待の声に応えたいという思いもあり、誇りを持って仕事に従事させてもらっています。前任は新潟県の佐渡島で所長を務めていました。

■ 大洲に来た感想を教えてください。

伊予の小京都と呼ばれている通り昔ながらの町並みが残っていて、住みやすい町ですね。地元の方との交流も多く、自治会の集まりにも呼んでいただいております。愛媛は温かいところだと聞いていましたが、大洲やこの地方は冬が寒くて驚きました。

■ 今後の肱川流域がどうなってほしいと思いますか。

洪水のない安心、安全な流域になってほしいです。うかい、カヌー、あゆ、肱川あらしといった肱川の恵み、観光資源のさらなる有効活用を期待しています。

■ 最後に地域の方々にひとことお願いします。

工事に伴い、いろいろとご迷惑おかけしておりますが、一日も早い完成を目指して頑張っております。今後ともご協力のほどよろしくお願い致します。



清水・安藤ハザマJV所長

芳岡 良一